

二〇一番

天あまの川がは に向むかひ立たちて 恋こひしらに 言ことだに告つげ
む 妻つまで問ふまでは

二〇二番

白しら玉たまの 五い百ほつ集つどひを 解ときも見みず 我われは寝ねかて
ぬ 逢あはむ日ひ待まつに

二〇三番

天あまの川がは 水みづ陰かげ草くさの 秋あき風かぜに なびかふ見みれば 時とき
は来きにけり